

〈研究ノート〉

古ジャワ『サン・ヒアン・カマハーヤーナン・
マントラナヤ(聖真言道大乘)』

石井和子

I はじめに

古ジャワの密教教理書というべき『サン・ヒアン・カマハーヤーニカン (聖大乘論)』は、『サン・ヒアン・カマハーヤーナン・マントラナヤ (聖真言道大乘)』をその序文として、1910年オランダの J. Kats により初めて世界に紹介された。そして1913年には J. S. Speyer により梵文偈の校訂が行われている。『聖真言道大乘』(以下『SHKM』と略す)は梵文の偈を古ジャワ語に訳すというかたちをとっており、この梵文の偈が世界の仏教学者の注目を集めてきた。それはこの偈の一部が漢訳、チベット語訳のみで今だに梵文のテキストのみつかっていない『大日経』の断片であったからである。一方、『SHKM』の古ジャワ語訳と『聖大乘論』(以下『SHK』と略す)はこれまであまり関心が持たれてこなかった。しかし、これらの書が古ジャワの密教を知ることができる唯一の資料ともいえるものなので『SHKM』並びに『SHK』の全和訳を試みた次第である。本稿においては、『SHKM』の構成をみたあと和訳を紹介させていただく。なお『SHK』については拙稿を参照されたい¹⁾。

II 「マントラナヤ (真言道)」について

いわゆる密教をいう時、外国の学者達は「金剛乗」とか「真言乗」という語を用いているようである。しかし、サンスクリット文献、もしくはサンスクリットより翻訳されたチベット文献の古いものには「真言乗」や「金剛乗」の語は存在しないといわれる²⁾。

8世紀のブツダグフヤの『大日経広釈』の冒頭部分には二種の行、「波羅蜜の門」と「真言の門」より入り行ずるものがあると説かれている³⁾。また11世紀の後半から12世紀の初めに活躍したアドヴァヤ・ヴァジラの書では、大乘が「波羅蜜道 (Pāramitānaya)」と「真言道 (Mantranaya)」とに二分されると説かれる。

それでは、ジャワではどのようなであろうか。『SHKM』の梵文の第一偈の訳でジャワの阿闍梨は「Sang Hyang Mantranaya sira Mahāyāna mahāmarga ngaran ira (聖なる真言道は大乘

の偉大な道なのです)」と言っている。大乘には六波羅蜜の修行を主とする「波羅蜜道」といった他の道もあるという理解の上で「真言道」を偉大な道。大乘の幹線道路 (mahā margga) というべきものだと考えていたと言えよう。それは「大乘」と並ぶ「真言乘」ではなくて「大乘の真言道」なのである。しかし、ジャワの文献においては『SHKM』で用いられている真言道大乘、「mantranaya mahāyāna」あるいは「kamahāyānan mantranaya」の語は他には見当たらず、ただ「mahāyāna (大乘)」となっている。ジャワの文献においては、「大乘」とあっても、その内容は「密教」であると考えてみる必要があるのではなかろうか。

それでは、真言道の大乘、即ち密教はいつ頃ジャワに入ったのであろうか。密教經典の一つ『金剛頂経』を中国に伝えたインド僧金剛智は718年インドから中国に向かう途中スマトラに滞在しており、720年中国にたどりつくまで風俗習慣のちがう異国で苦勞したという。この間、スマトラのみならずジャワを訪れていた可能性が大きい。というのも『貞元新定釈教目録』に不空三蔵が闍婆国で金剛智とめぐり会い弟子となったとの記述があるからである。7世紀とみられるソジョムルト碑文によれば⁴⁾、仏教寺院ボロブドゥールを建立したシャイレンドラ王家も初めはシヴァ教を信奉していた。778年のカラサン碑文は⁵⁾、シャイレンドラ王家の顧問の進言により国王パナンカランが女尊多羅を祀る寺院を、大乘の戒律をまもる修行僧のための僧院と共に建立したと記述している。多羅尊はインド・チベット密教では重要な地位を占めている女尊であり、この碑文をもってシャイレンドラ王家は仏教に改宗したとみなされている。9世紀前半にすでに完成したとみられるボロブドゥール寺院の方壇には金剛界マンダラの五仏、即ち、東-阿閼、西-阿弥陀、南-宝生、北-不空成就、それに四方向の毘盧遮那仏がみられる。またボロブドゥール寺院の近くにはこれより古いといわれるムドゥット寺院がある。この寺院の外壁には八大菩薩の浮き彫りが見られる。八大菩薩は『大日経』のマンダラの基本となっていること、堂内に『大日経』の大悲胎藏マンダラの仏・蓮華・金剛の三部形式を表わしているとみられる三尊が現存していることを考えると、『金剛頂経』と『大日経』という密教の大きな二つの流れが、8世紀末から9世紀にかけてジャワに入っていたことは間違いないであろう。弘法大師、空海の『秘密曼荼羅経付法伝』によれば、空海に先立ち恵果のもとに弟子入りしていた訶陵国、即ちジャワの僧弁弘は恵果により灌頂を受け、胎藏法を伝授されたという。弁弘は大悲胎藏大曼荼羅の法を求めて中国に渡ったのである。その当時ジャワにおいてはまだ『大日経』の教義は流布していなかったのであろうか。ボロブドゥール完成後、そう遅くない時期であるサカ暦782年 (AD 860年) のグダガン碑文によれば⁶⁾、「(時の王である) ロカパーラ王はボディミンバの尊師のために免税地の特権を与えており、毘盧遮那仏そのものである尊師は昼夜、瑜伽、供養、三摩地、念誦にはげみ国王のため敵の降服を祈禱した」という。この尊師には息子が二人おり、ボディミンバの免税地はこの二人が継ぐと述べている。この尊

師は出家をしていない、つまり妻帯者であったとみられる。この出家をしない一派は、マジャパイト時代の『ナーガラクリターガマ』の77章⁷⁾では「kabajradharan akrama (妻帯の執金剛派)」と呼ばれている。同上書において妻帯の執金剛派の自由免税地の名があがっているが、その中には10世紀の初め東部ジャワにイーシャーナ王朝を開いたシンドック王の葬られた地、「イーシャナ・ヴァジラ」や「ブドゥール」の名がみえる。この「ブドゥール」はボロブドゥールと関係があるのではなかろうか。「毘盧遮那仏そのもの」という上記の記述からもボディミンバの尊師は密教、即ち『SHKM』にいう真言道大乘を信奉する阿闍梨であったことは明らかであろう。

「大乘」信仰のシャイレンドラ王家は9世紀の中頃、王女プラモダワルダニーがシヴァ教信奉のピカタン王に嫁したことにより終りを告げ、仏教は亡んだと一般にいられている。しかし、グダガン碑文のロカパーラ王とボディミンバの尊師との関係、『SHK』⁸⁾に記述のあるシンドック王とワンジャンの阿闍梨、サンバラ・スルヤ・ワラナ師との関係、また9～12世紀に作られたとみられる密教の尊像⁹⁾が多数出土していることからみても、「真言道大乘」は国家宗教としての地位を失ったが、13世紀、クリタナーガラ王の時代にシヴァ教と並んで再び国家宗教として返り咲くまで、舞台裏での活動は続いていたといえよう。

III 『SHKM』の構成

『SHKM』は弟子を入壇させ、灌頂を授与するための儀軌である。『大日経』は¹⁰⁾、阿闍梨は衆生が入門を請うてくるのを待っているだけではなく法器となるにふさわしい者を自ら探し出し弟子入りを勧める必要があると説いている。どんな者が弟子としてふさわしい者かといえ、ば、「法器となるに堪えて諸垢を遠離し、大信解と勤勇と深信ありて常に利他を念ず」と『大日経』はいう。しかし、『金剛頂一切如来真實攝大乘現證大教王経¹¹⁾』には、「器非器は簡擇すべからず」とある。このことは『大日経』と『金剛頂経』の性格を考えると興味深い。

入壇にあたり弟子は目隠しされて道場に入る。阿闍梨は第10偈の真言をもって金剛水を弟子に飲ませ三昧耶戒を与える。次に阿闍梨は金剛薩埵の印を結んで第12偈を説く。このあと弟子は手を引かれ曼荼羅の前にゆき花(鬘)を投げる。この花が落ちたところがその弟子の本尊となる。続いて阿闍梨は第13偈をもって弟子の目隠しを解き曼荼羅を見せてから灌頂を授与するのである。この時の作法が第10～22偈で、第16偈は「金籬偈」、第17、18偈は「明鏡偈」そして第20～22偈は「法輪・法螺偈」と呼ばれる。第19偈は『大日経』や『略出経』にはないものであるが、『サルヴァ・ヴァジュローダヤ(一切金剛出現)¹²⁾』(以下『ヴァジュローダヤ』と略す)には入っており、『SHKM』と同じく「明鏡偈」のあとに説かれている点は興味深い。第26～42偈は『最上根本大樂金剛不空三昧大教王経』(以下『理趣広経』と略す)の「一切如

来大三昧曼拏羅儀軌分二十二」¹³⁾ からとられているが、これは「安息戒」というもので、灌頂によって仏位に進んだ新戒の仏達が護持すべき禁戒であり、その仏たる自覚を強調したものであるという¹⁴⁾。

42の梵文偈のうち、第1～9、16～18、20～22が『大日経』にあることは萩原雲来博士に¹⁵⁾、また第26～42偈は酒井真典博士により『理趣広経』にあることがすでに指摘されている。本稿では、新たに第10、11偈が『一切悪趣清浄軌』¹⁶⁾に、第12偈が不空訳『真実撰経』(音写)¹⁷⁾、『金剛頂瑜伽中略出念誦経』(以下『略出経』¹⁸⁾)に、第13偈¹⁹⁾が『真実撰経』(音写)、『ヴァジュローダヤ』、『一切悪趣清浄軌』²⁰⁾、そして第19偈に相応するものが『ヴァジュローダヤ』にあることを指摘したい。

1. 弟子の勸発・慰諭	1～9偈	『大日経』(入曼荼羅具縁真言品第一)
2. 金剛誓水・三昧耶金剛契	10偈	『一切悪趣清浄軌』
3. 警悟(授与金剛・鈴・印契後)	11偈	同上
4. 召入金剛薩埵	12偈	『真実撰経』『略出経』
5. 開金剛眼	13偈	『ヴァジュローダヤ』『真実撰経』『一切悪趣清浄軌』
6. 見曼荼羅	14～15偈	
7. 灌頂	a) 洗净眼	16偈 『大日経』(具縁真言品第二)『略出経』
	b) 令弟子对鏡	17～18偈 同上
		19偈 『ヴァジュローダヤ』
c) 授与商法	20～22偈 『大日経』(具縁真言品第二)	
8. 警悟・慰諭	23～25偈	
	26～42偈	『理趣広経』(一切如来大三昧曼拏羅儀軌分二十二)

IV 和 訳

< >内は梵文偈の和訳である²¹⁾。古ジャワ語訳中の梵文偈は、訳文の流れをよくするために省いたことをお断りしておく。

仏陀に帰依します。

om aḥ huṃ とは、加持であり(この)三字(尊)が身語心の金剛という最高真実であると告げることなのです。

1. <来たれ仏子よ、汝のために正しく大乘の真言道の儀軌を説かん。汝は大道²²⁾を受くるにふさわしき者なり。>

聖なる大乘、これをあなたに伝えてあげましょう。聖なる真言道は大乘の偉大な道なのです。これをあなたに説教し伝えてあげましょう。なぜならば、あなたは聖なる真言道法を伝えられるのにふさわしい人物だからです。

2. <過去、未来、そして現在の正覚者たちは、世界の利益に住す.>

過去仏、つまり過去において正覚を得たお方は次の通りです。ヴィパシュイン仏、ヴィシュヴァブー仏、カシュクチャンドラ仏、カナカムニ仏、カシュヤパ仏、これらはすべて過去仏なのです。さて、未来仏、これから正覚を得るものには弥勒（マイトレヤ）や普賢（サマンタパドラ）などがいます。これらはすべて未来仏というのです。そしてシャカムニは現在仏といえます。このお方は今あなたの「仏陀」となっているお方で、その教えにあなたが従うのです。このお方は常に一切衆生の安んずりと幸福を切望しておいでになり、またすべての人々の輪廻からの解放を心がけておいでになる一方、世界の破壊の消滅をも考えておいでになるのです。

3. <これらすべての勇士はこの最勝の真言の儀軌である金剛を知り、菩提樹の下で無相の一切智を得たり.>

過去、未来、現在の諸仏たちは、仏陀の境地を得るのに別の道があったわけではありません。この大乘の偉大な道に従われ涅槃の世界への道とされたのです。この真言道にしっかり従ったからこそ一切智を得ることができたのであり、また菩提樹の下で仏陀の境地を得ることができたのです。

4. <真言の使用は無比。これを用いて釈迦族の獅子たる救世者は、極めて強きおそろしき魔軍を打破せり.>

世尊シャカムニはそれゆえに魔軍に対する勝利を得たのです。すべての魔の障害を克服することができました。煩惱魔、陰魔、死魔、天子魔、それらは全て打ちのめされました。それらの魔を打破することができたのは修習した三摩地の威光、威神力、そして真言道の威力によるものです。

5. <それゆえ仏子よ、一切智を得るために決意せよ。妄分別を常に正しく取り去り、賢善なる意向を發せよ.>

それゆえ聖なる真言道に対するあなたの考えにとまどいがあることはありません。真言道にしっかり従いなさい。そうすれば、あなたは一切を得ることになるでしょう。わたしがあなたに伝えることを良く聞きなさい。わたしの言葉に良く注意しなさい。妄分別を伴った思考をすてなさい。妄執を滅しなさい。心を安らかにしなさい。疑ってはなりません。

6. <これは大乘の大いなる繁栄をもたらす最勝の道なり。これにより汝等は未来の如来となるらう.>

聖なる大乘の偉大な道、これをあなたに示してあげましょう。良く聞きなさい。これは天上の至福への正しい道であり、大いなる繁栄を与えることができるのです。大いなる繁栄とは外面的、内面的幸福であり、外面的幸福には、名声、富、階級、王位、世界の支配といった

ものがあります。内面的幸福とは世間を越えた幸福であり、苦を伴わないものです。老い、病や死に遭遇しないこと、それは無上で最上の正等覚の幸福、解脱の幸福なのです。外面的、内面的幸福、つまり、それが大いなる繁栄であり、修習する大乘の偉大な道で満されることのできるのです。それゆえ、この大乘の教義にかたく従う時には、あなたは必ずや仏陀の境地を得ることができるのです。

7. <自在者で大幸運者、一切世界の制多なり。有と無とを超越し、虚空の如く無垢。>

あなたが解脱を真実のものとして体得した時には、二種の資糧、つまり智と福の資糧を得ることになり、一切世間の尊敬をもそれによって得ることでしょう²³⁾。あたかも虚空のように自性は清浄であり、無相で実体がなく、示すこともできなければ、大きくも小さくもなく、黒でもなく白でもなく広くすみずみまで行きわたっている、それがその姿なのです。

8. <甚深にして²⁴⁾一切の想像によっても了知し難く、垢濁なく一切の戯論を離れ、戯論により戯論されず。>

聖なる大乘の偉大な道は深いものよりもっと深いので、大深遠なるものは他にありません。

(それは)想像もできないし、推断するのは間違っています。けがれがなく、一切の戯論にまみれていないし、煩惱の煩惱、つまり、慢、虚偽、欲望、愚妄、貪欲、暗黒といったものすべてが入り込んでいない、本当にそのようなものを体していないのです。貪(むさぼり)、瞋(いかり)、癡(おろかさ)は戯論によってあらわれるのです。

9. <業や所作を離れ、二諦に任せぬ²⁵⁾ この最勝の道をば、この道に住する者は得られよう。>

それ自体作用しなければ、作用を及ぼすこともないのです。常に二諦、つまり俗諦(世間的真理)と真諦(出世間的真理)という形をとっています。(しかし)一方によりかかっている、つまり俗諦でもなく真諦でもないのです。それは天の至福と解脱の幸福をもたらす大乘の偉大な道と呼ばれるものです。真言道大乘を現在、未来にわたりあなたは修習するのです。

オーン ! 金剛水 オーン・アーフ・フーン! これは心呪です。

10. <汝もし三昧耶を違越せばこの水は地獄の水となろう。三昧耶を守護すれば成就せる金剛甘露水となり悉地を得よう。>

勇気づけられますように。

金剛水とは何でしょうか。それは普通の水ではなくて地獄の水です。もしあなたが三昧耶を確信せず、金剛智を軽んずる時、あなたは一家、一族もろとも亡ぶというような不幸を経験するでしょう。しかし、注意を払い三昧耶を軽視しない場合には悉地達成の幸せの道を得ることになるでしょう。手短かに言えば、金剛水は毒でもあり甘露でもあるのです。もし軽視す

るならば不幸な目にあうし、一方注意を払えば今すぐにも、また将来において悉地達成の幸せを得ることができるのです。

11. <金剛と金剛鈴と印契とを曼荼羅を見ざる人に伝えるべからず。世俗の人は不信をいだきこれを嘲笑しよう.>

金剛杵、金剛鈴、印契を曼荼羅を見ていない人や三昧耶の秘事をまだ知らない人に教えてはなりません。秘密にしておきなさい。まだ教えを受けていない人に伝えてはいけません。ましてやその意義を確信せず、至尊者のちかいを受けることを真剣に望まず、あなたをあざ笑う者にはなおさらのことです。聖なる道をあざける者にもそのようにしては（＝伝えては）なりません。そのような者が常に苦しむのは明白なことです。それゆえ聖なる金剛智を信じないことがないように。聖なる三昧耶に注意を払いなさい。

12. <この汝の三昧耶は金剛を有し、金剛薩埵と称せられる。これにより汝に無上の金剛智を遍入せしめん。²⁶⁾>

聖なる三昧耶は至尊たる金剛薩埵と呼ばれます。このお方が今やあなたの心となりました。金剛智があなたの心となったのです。

心を落ちつけなさい。

13. <オーン。一切を洞見し、眼を開くを第一とする金剛薩埵は自ら今日汝のために無上なる金剛眼を開く²⁷⁾.>

吉祥なる金剛薩埵尊は今やあなたの目の中においでになるのです。その目的はあなたの眼を開かせることにあるのです。それゆえ気分を楽にしなさい。あなたの眼を開けなさい。曼荼羅に視力を集中させなさい。

14. <この曼荼羅を見よ。また信を生ぜよ。汝は一切の真言により加持せられ諸仏の家に生まれたり.>

聖なる曼荼羅に注意を向けなさい。信念を持ちなさい。聖なる曼荼羅を敬わないことがあってはなりません。今やあなたは仏陀の家族、つまりあなたは今仏陀となったのです。そして（あなたは）一切如来により加持されており一切の真言により念じられ清められたのです。

15. <あらゆる円足、悉地、趣は汝の前にあり、三昧耶を守りて成就し、真言に精勤なれ.>

幸せがあなたのところに近づいています。悉地もそのようであり、それらは全てあなたの眼前にあるのです。もうすぐそれをあなたは達成できるでしょう。早く聖なる三昧耶を修習しなさい。そうすれば速かに悉地を得ることができるでしょう。真言の持誦、供養にはげみなさい。ぐずぐずしてはいけません。その至福を現世においても、来世においても得られるように。

16. <イーン・オーン、金剛眼。被膜を取り去れ。仏子よ、諸仏は汝の無智の膜を取り去った。

あたかも眼翳を医王が針で治療するごとく.>

気分を楽にしなさい。あなたの心の無智なるものが消え去りました。吉祥なる執金剛によって取り除かれたのです。うんで悪臭を発する眼病にかかった者が医者に目を治療してもらい、治って目が澄み苦患がなくなり視力が平静になるように、無智なるものも至尊者に取り去られて消え去り、あとかたもなくなりました。それゆえ心を安らかにしなさい。疑ってはなりません。

17. <諸法は影像の如し、澄み清く濁なく所取なく、また不言説。因業より生じるものなり.>

心して諸法を見なさい。鏡の中の姿とあなたの身体とはかわりはありません。明らかに影かたちはあるが、とらえることができないのです。一切の存在もそのようなのです。とりわけ人間の出生、それは業のなせるものだからです。なんとなく見えるようなのだが、本当は存在しないのです。

18. <かくの如くこれらの諸法は無自性にして無所依と知り、衆生のために無比の利益をなせ。汝は諸の救世者の胸中に生まれたり.>

諸法が幻であることを固く信じなければいけません。一切の存在が無自性だということを知らなくてはいけません。今すぐにも他人の利益のために努力しなさい。なぜならば、あなたは今や仏子、つまり仏陀世尊の子なのです。それゆえ必ず善業にとりかかり、他人の利益を考えなさい。

19. <仏子よ、本来よく澄み清く濁なき一切諸仏の主なる金剛薩埵は自ら汝の心の中に住す.>

心を安らかにしなさい。金剛薩埵はあなたの心の中に存在します。金剛薩埵は清らかな本性を持ち、貪、瞋、癡などなく、また一切如来の最上位の方でもあります。今この方があなたの心となったのです。この方がおいでになるのは、あなたが福德の資糧、智慧の資糧の道を得ることができるようにと願ってのことです。懸念することはありません。

20. <汝は今日よりいたるところに無垢無上なる法螺を吹いて世間のため諸の救世者の法輪を転ぜよ.>

今から（あなたは）吉祥なる執金剛の法輪を一切衆生のために転じるのです。あなたの目的は無辺の十方世界のすみずみまで、これを満たし、あふれさせることにあります。そしてそれらすべてが法螺で等しく満たされるようにしなさい。

21. <疑念を生ずるなかれ、疑なき心をもって世間に対し最勝の真言行道を開示せよ.>

疑ってはいけません。疑念がないことを確信しなさい。聖なる真言道大乘を顕示しなさい。

22. <かくの如く恩を知れば、汝は諸仏の報恩者と讃えられ、また一切の持金剛は皆汝を守護す.>

あなたのように至尊者により清められた者、仏陀世尊に特別の供養をした者は至尊者に恩恵

を与えた者とみなされます。お仕えすると（その方は）お喜びになるのです。それで昼夜（あなたが）どこにいても、どこへ行こうとも、何をしてもあなたを注意深く守ってくださるのです。あなたがすでにお仕えしているのを御存知ゆえに、あなたを見守ってくださるのです。疑ってはいけません。それは至尊たる金剛薩埵があなたの守護者となっておいでになるからです。

23. <般若を方便とする心には少しの作すべからずものなし、常に疑うことなく五欲を享受せよ.>

やりとげられないことは何にもありません。とはいえ三界のようなものは作業では無理なことで、天上界、人間界、地獄界に住む者にはとうていできる筈がないのです。しかし、そういった非常に困難なことでもあなたは為すことができるのです。しかし智慧を確信すればのことです。そして常に疑いのない心を失ってはいけません。五欲を享受しなさい。あらゆる欲望を選別してはいけません。それらをすべて享受しなさい。それがあなたのような行者が意図するところなのです。疑いのない心を確信しないことがないように。

24. <諸の菩薩が自性から律を護るごとく、正しく清浄な者は貪などによりて一切衆生の利益をなす.>

至尊シカサのように摩訶薩埵は聖なる真言道を堅持することを切望するのです。真の望みというのは、他人の利益を考えるようにすること、煩惱にまみれないようにすること、貪、瞋、癡に汚されないようにすることです。

25. <誰にても三昧耶を憎悪し、また犯す者は仏陀の教えを護るために殺されよう。>

聖なる三昧耶を好まず、真言道を憎む者がいます。三昧耶をすでに終え、教えも受けたのに三昧耶を破る者がいます。道はずれたらその結果はどうなるでしょうか。過去において尊師をさげすんだ者は、（その師により）敵対されています。そういった三昧耶にはむかう者、三昧耶を破った者は殺され不能にされるよう至尊者によって命じられているのです。それもこれも仏陀世尊の教義が守られ、聖なる三昧耶が敬われるようにするためであり、これが三昧耶に敵対する者などが殺されるようにすることの果なのです。

26. <汝等は第一秘密最上の曼荼羅を見、（またこの中に）入れり。今より直に一切の罪科を脱して清浄なり.>

気分を楽にしなさい。今曼荼羅に入りました。聖なる最高の秘密に入ったのです。よく注意して聖なる曼荼羅を見なさい。あなたはすでに曼荼羅に入り、秘密をことごとく教えられたのです。それゆえ全ての罪は消え去り、洗われたようにきれいになるでしょう。（それは）根こそぎなくなりました。見てごらんください。気持ちを楽にしなさい。疑ってはいけません。

27. <この大楽乗に勝る妙薬なし。汝等は阻止せられず、また虚しからず、普く恐る所なく楽

を受けよ。²⁸⁾>

あなたは真言道から逸脱することができるでしょうか。あなたのような者が聖なるこの道から外れることは禁じられているのです。聖なる真言を注意深く修習すれば、必ずやあなたは魔や異教徒その他に邪魔されることなく悉地達成の幸せを得ることができるでしょう。それゆえ心を安らかにしなさい。疑ってはいけません。聖なる真言を敬い続けなさい。

28. <汝はこの一切仏陀の宣説する円満なる三昧耶律儀を常に護るべし。これは最上常住なる教えなり。>

注意深く三昧耶を守りなさい。その秘密を守るのに注意を怠ってはいけません。あなたは聖なる三昧耶を誰に教えたらいいか知らなくてはいけません。その者の家系、考え、ふるまい、品行を重んじるのは言うまでもないが、その者の聖なる真言に対する確信が堅い場合には聖なる秘密を教えなさい。疑ってはいけません。なぜならば、あなたはすでに一切如来によって同意され、また世尊により聖なる三昧耶を顕示するのを許されているのです。あなたは世尊により一切如来の命を実行するのを許されているのです。

29. <汝の菩提心は印契によりて金剛となる。捨つべからず。一度これを起せるのみにて既に仏陀なり。疑うべからず。>

聖なる菩提心をあなたは捨ててはいけません。菩提心、つまりこれは聖なる金剛杵であり印契であるのです。それは金剛杵と印契を因としているのです。あなたはやがては仏陀となるのです。聖なる金剛と鈴と印契にたゆまぬ努力をした時に、あなたは解脱を体得するのです。

30. <あるいは無智、あるいは愚癡にして正法を誹謗すること決してあるべからず、されどまた決して開示するべからず。>

正法を拒絶したり、またそれを捨てたりしないようにしなさい。無智と愚妄ゆえに正法を暴いたりするのは、あなたのような人にはふさわしくありません。大乘の真言道を行ずる人が聖なる経典を暴くなどという事は禁じられているのです。

31. <自我を捨てたりといえども苦行して悩むべからず、所樂に随って樂を受けよ、これ本来の正覚者なり。>

あなたの身体を捨てなさい。身体にこだわらないようにしなさい。身体に愛着を持ってはいけません。菩提道を心ゆくまで行じ苦行で痛めつけることはいけません。できるからといってやるのはいけません。菩提道を心ゆくまで行じなさい。あわててはいけません。あなたはやがては仏陀となるのです。

32. <金剛と鈴と印契は決して捨つべからず、阿闍梨は軽侮するべからず、なんとすれば諸仏に等しければなり。>

聖なる金剛杵、鈴、そして印契をどこに居ようと、どこへ行こうと捨ててはいけません。ま

た、師に背くこともなりません。阿闍梨を侮ってはいけません。あなたも師を軽蔑してはいけません。師は諸仏と同じ、すべての仏陀と等しいのです。

33. <誰にても諸仏に等しき重んずべき阿闍梨を軽侮する人は常に苦を受けよう.>

それゆえ、師を軽蔑し、愚弄し、侮る者は地獄へ行くことになり、閻魔大王の大鍋（釜）に落ちて、その赤銅色をして牛の顔のついた鍋（釜）の「おこげ」となるのです。これが師を軽蔑する人の「苦」です。

34. <ゆえに勤勞をなして（彼を保護し）所願をまだ与えずとも、賢善にして大いに尊重すべき金剛阿闍梨は決して軽蔑すべからず.>

懸命に師事しなくてはなりません。たとえあなたの師の良さや才覚が、あなたにわからなくてもです。たとえどうあろうとも、師を軽蔑しないようにしなさい。なぜならば、敬意をもって師事しないというのは大罪で大不幸なのです。それゆえ、師に良くお仕えしなさい。

35. <常に己の三昧耶を行え、常に諸如来を供養せよ。また常に師に従順なれ。なんとすれば一切仏に等しければなり.>

三昧耶を行うのにぐずぐずしてはいけません。そして常に如来の供養をしなさい。常に師に忠実に従いお仕えしなさい。事実、一切如来は師と等しいのです。それゆえ、師に忠実に仕えなさい。

36. <彼に施すのは一切仏に施すなり、また無尽なり、この施より福の資糧を生じ、資糧より最上悉地生ず.>

ゆえにあなたのような人が尊師に忠実に従い尊師に対して供物などさし上げるのは、仏陀世尊に布施や資糧をさし上げることになるのです。その理由は（それにより）福德の資糧を得ることになり、福德の資糧を得たならば、容易に悉地を得ることができるのです。そのためにも懸命に師に仕えなさい。

37. <己の三昧耶は命にかけても行うべし、施すべからず妻子までも（施して）、ましてや常なき財をや.>

命さえも捧げて師に仕えなさい。それには子供や妻さえも尊師のためにさし上げるのです²⁹⁾。奴隷となって仕えるのです。金、宝、石、布、銀といった所有物は言うまでもなく、全てを師のために供養しなさい。

38. <何んとなれば勤救者であれば、阿耨祇劫にても常に甚だ得難き仏位を現世にて与うればなり.>

というのも仏陀になるのは特に難しいのです。仏陀の境地に達するべく、たとえ長いこと善根や布施波羅蜜などにはげむ者でも、それを得ることができるとは限らないのです。それゆえ解脱（を得るの）は難しいのです。仏陀となるということは、それを現世において尊師よ

り与えられることなのです。(それは)全くあなたに対する師の好意の大きさを表すものなのです。それゆえ妨げなく、ためらうことなく、あなたの命と妻子を導師に捧げなさい。

39. <汝等はこの(三昧耶)に安住するをもって汝等の今生は果報を得たりというべし。汝等は今日全く諸天に等し、自然有なり。>

聖なる三昧耶をよりどころとすることで、仏陀の身体が今やあなたとなったのです。正覚はあなたのところにあり、解脱はあなたが掴んで握りしめているのです。

40. <今日灌頂せる諸の長老は一切仏陀、一切持金剛と俱に王中の王として三界の大王位に住す。>

心を安らかにしなさい。あなたは一切如来(男・女)により灌頂されたのです。あなたが受けた灌頂の名は転輪聖王の灌頂といわれるものです。

41. <今日汝等は魔羅を折伏し、最勝城に入り仏位を得たり、この事疑いなし。>

明かに魔の活動はあなたによって打破されました。本当に今や涅槃の城に達しているのです。あなたは現世においてすぐにも解脱を得るのです。安心しなさい。疑ってはいけません。

42. <以上言うところにおいて意中の金剛の信を起せ、無尽の樂を与える己の三昧耶を敬え。汝等は今日樂少なき世界に處して常住なる一切仏陀に等しき性を得たり。>

それゆえ信念を持ち続けなさい。心を強く持ちなさい。真言道大乘を道としなさい。懸命に三昧耶を守りなさい。なぜならば、それが無上の幸せを与えてくれるからです。つまりこの世は幸せが少ないのです。それゆえ一切如来と等しい仏陀の位を獲得しなさい。それを怠ってはいけません。十分に注意を払いなさい。そうすれば悉地をたやすく得ることができるのです。

以上で聖真言道大乘の教義は終わりです。

注

- 1) 東京外国語大学論集 37号・1987.
- 2) 松長有慶『密教経典成立史論』p. 23.
- 3) 酒井真典『大日経広釈全訳』(酒井真典著作集第二巻). p. 3.
- 4) Boechari『Sejarah Nasional Indonesia』1984, p. 91.
- 5) Yamin H. M.『Tatanegara Majapahit』VI, 1962, p. 136.
- 6) Kern H.『Over een Oude Javaansche oorkonde (gevonden te Gěḍangan, Surabaya) van Çaka 782』, 1881, p. 34.
- 7) Pigeaud Th.『Java in the 14th century』vol. I, 1960.
- 8) 『SHK』の写本のうち、ライデン大学本 LOr 14749, 14806, 15003 にはこの記述がある。
- 9) これらの尊像は20センチ以下の小さいものである。自己の本尊として厨子などに安置されていたのではなかろうか。写真は注1の拙稿を参照されたい。
- 10) 国訳一切経 密教部 1.

- 11) 国訳一切経 密教部 2. p. 190.
- 12) 密教聖典研究会『Vajradhātumahāmaṇḍalopāyikā Sarvavajrodaya』梵文テキスト和訳(Ⅱ).
- 13) 大正蔵 No. 244.
- 14) 酒井真典「ジャバ発見密教要文の一節に就いて」密教文化 8.
- 15) 荻原雲来「ジャバにおいて発見せられたる密教要文」(荻原雲来文集) p. 737.
- 16) T. Skorupski『The Sarvadurgatipariśodhana Tantra』, 1983, p. 296.
- 17) 国訳一切経 密教部 2.
- 18) 国訳一切経 密教部 1 第12偈とほぼ同じものは『諸仏境界撰真實経』にみられる.
- 19) 第13偈とほぼ同じものが『略出経』『諸仏境界撰真實経』にもみられる.
- 20) 高橋尚夫訳『Sarvadurgatipariśodhanatantra』(3) 豊山学報28・29.
- 21) 和訳には J. Kats 本を使用. 梵文偈の和訳は, 1～9 偈を除き注15の荻原雲来博士の訳を大部分使用させていただいた.
- 22) 漢訳では「為彼大乘器」となっているが, 梵文では「大道の器」である. チベット訳にはジャワのものと同じ, 「大道」が用いられている.
- 23) Kats 本では前項に入っている「あなたが解脱を～」以下「世間の尊敬をもそれによって得ることになるでしょう」の部分は, この項に移さなければ梵文と一致しない.
- 24) 漢訳は「諸法甚深奥」となっているが, これはジャワ語訳とは一致しない. ジャワ語訳では, 深奥なのは「聖なる大乘の偉大な道」, 即ち「真言道」だといっている. 第6偈からするとジャワ語訳の方が適切であると考えられる.
- 25) 梵文の「satyadvayam, anāśrayam (二諦に住せぬ)」は漢訳の「常依於二諦」とは正反対である. 顕教では世俗諦と真諦のいずれかによるものであるが, 密教では世俗諦=真諦とみる. これをジャワの阿闍梨は, 「よりかかっている(無所依)」と解釈したのではなからうか.
- 26) 『略出経』(大正蔵866)中の漢訳. 此是三摩耶金剛. 名為金剛薩埵. 願入汝身以為無上金剛智.
- 27) 『略出経』中の漢訳. 金剛薩埵自專為汝. 開眼五眼及無上金剛眼.
- 28) 梵文偈中の「mahāsukhā (大樂)」はふつう「性的ヨーガ」を意味するといわれるが, ジャワ語訳にはこの意味での説明はない. この「大樂」はジャワの阿闍梨には釈通りの「悉地達成の幸せ」と解されていたのではなからうか.
- 29) 『蕤呬耶経』下巻(『国訳一切経』密教部 2, p. 145)は, 「尊師に対し妻子銭財など悉く与えよ」と説いている. 『SHK』の布施の項には, 「布施には, 布施, 大施, 無上施の三種あり」と説き, 布施は財宝, 大施は妻子, 無上施は自分自身となっている. 『大智度論』では「自分自身を犠牲にして施すのは中の施で, いかなるものを与えても心に執着がないのが上の布施」と説かれている. 「密教」になってこの順序に変化をきたしたようである.